

ちがいのちがい

これはあってよいちがい？ あると危険なちがい？

1. 大人はたばこを吸ってもよいが、高校生は吸ってはいけない。
2. I君はこわい先生の言うことはよく聞かぬが、こわくない先生の言うことは聞かない。
3. M君はニンジンが嫌いだが、Kさんは何でも食べる。
4. T君は牛乳パックのリサイクルに熱心だが、Y君はティッシュペーパーを使い放題だ。
5. Tさんは中学卒業後ガソリンスタンドで働いているが、Yさんは高校へ進学した。
6. Hさんの家では必ず父親が先に風呂にはいるが、N君の家では決まっていない。
7. Uさんの小学校は廃校になり新しい学校まで90分かかかるが、S君は小学校まで10分だ。
8. Mさんはどこへでも旅行できるが、車いすに乗っているHさんは一人で電車に乗ることができない。
9. 女性は16歳で結婚できるが、男性は18歳にならなければ結婚できない。
10. 日本では食事の時にハシを使うが、インドでは指を使う。
11. 10歳のAさんは毎日学校に行っているが、フィリピンのO君は毎日路上でガムを売っている。
12. A中学校の出席番号はすべて男子が先で、女子が後になっている。
13. マラソン大会で、男子は30Km走り、女子は15Km走る。
14. 国会議員は圧倒的に男性が多いが、女性は極めて少ない。
15. 両親は妹には食事の後かたづけを言いつけるが、兄には何も言わない。
16. 日本では自己主張するとでしゃばりだと非難されるが、アメリカでは自己主張しないと低く評価される。
17. テレビやポスターに女性の水着姿は多いが、男性の水着姿はほとんどない。
18. 日本では医師一人あたりの人口は約495人だが、バングラデシュでは、約3,348人である。
19. 日系ブラジル人は日本で働くことができるが、他のブラジル人は日本で働くことができない。
20. 日本人の平均余命は81.6歳だが、アフガニスタン人の平均余命は、43.1歳である。
21. アメリカの野球界で活躍するイチローには日本の選挙権があるが、日本の相撲界で活躍する朝青龍には日本の選挙権がない。
22. 日本には死刑制度があるが、フランスにはない。
23. 韓国には徴兵制度があり男子は全員軍隊を経験するが、日本にはない。
24. 日本生まれの在日朝鮮人のPさんは常に外国人登録証を持たなければならないが、イギリス生まれの日本人Wさんは持たなくてもよい。

フツ－の感覚？

ねらい

私たちは、日常会話の中で「フツ－」という言葉をよく使います。「フツ－」っていったい何を基準にフツ－なのでしょう？ 今までに、自分が学んできたもの、身につけてしまっているものについて、「フツ－」という表現で感覚を表します。では、この「フツ－」と言われる感覚は、みな同じなのでしょう？ 感覚の違いがあることについて、私たち自身の自覚も必要です。表面的には見えてこない多様な感覚について知り、私にとってあたり前とと思っている感覚が、決めつけや偏見などにつながることを理解しましょう。

基本概念

感覚の違い、感覚の自覚

時間

130分

準備するもの

ワークシート「気持ちに耳を傾けよう」（参加人数分）〈47ページ〉
 ワークシート「どう感じてる？」（参加人数分）〈48ページ〉
 「思う」「ちょっと思う」「あまり思わない」「なんとも思わない」の各項目をA3程度の白紙に書いたもの（項目数につき1枚）
 A4白紙（参加人数分）
 模造紙（グループ数）
 マーカー（グループ数）

プログラムの流れ

私が見えているものは

私たちは、人が自然体であることをどう見ているのでしょうか？
 生きている自覚を、人は見えることだけで判断したり決めつけたり、つくり上げていることが多分にあることを振り返ってみましょう。

【アクティビティ】
 宇宙人に自己紹介

多様な感じ方をきいてみよう

人が持つさまざまな感覚は、どのように表されましたか？
 4コママンガにある状況からそれぞれの感じ方や気持ちの違いをみてみましょう。

【アクティビティ】
 気持ちに耳を傾けよう

常識（普通）って何？

私たちの日常生活の中でも、人が持つ感覚で常識（普通）と思い込んでいる事柄や事象にはどんなことがあるのでしょうか？

そして、実際にその常識（普通）はどこから学んでいるのでしょうか？

【アクティビティ】

常識（普通）って何？



多様性を尊重する社会でわたしにできること

多様な感覚や、感じ方がある中で、何か行動を起こそうとする時に、私たちが自分の感覚を自覚し、他者の多様な感覚を理解しながらお互いを尊重するにはどのようにしたらよいのでしょうか？

【アクティビティ】

ペアで部屋の四隅

アクティビティの進め方

●宇宙人に自己紹介（20分）

椅子だけの状態で座ってもらいます。2人組になって簡単にお互いの自己紹介をしてもらいます。

その後、どちらか1人が宇宙人になって、もう1人が宇宙人に地球人を紹介します。お互いに交互に宇宙人の役になります。

2人で地球人をどう紹介したかを全体で紹介してもらいます。



ファシリテーターの問いかけ

- 「地球人の紹介は、難しかったですか」
- 「地球人の紹介では、どのようなことが出ましたか」
- 「難しかったのはなぜですか」
- 「この活動で、私たちが捉えている“人”について気づいたことはありましたか」

●気持ちに耳を傾けよう（30分）

ワークシート「気持ちに耳を傾けよう」を各参加者に配布します。事例を読みながら、「その子が感じていることは」の欄に、感情について例にあげられているものをあてはめてもらいます。その際、感情の例の他にもっとふさわしい感情があれば書かしてもらいます。

グループ（4～5人）になって、その子がどのように感じていると思ったのかを出しあいます。ここでは、どれが正しいということではなく、なぜその感情がふさわしいと思ったかなどを交流しあいます。

次に、ワークシート「どう感じてる？」を各参加者に配布します。

4コママンガを見ながら、最後のコマの場面での登場人物がどのような気持ちなのかを考えて、ふきだしに書いてもらいます。

グループで、4コママンガについて書いた気持ちを出しあいます。そして、これを通して思ったことや感じたことを話しあってもらいます。ここでは、感じ方の違い、感覚の違いを否定したり、評価したりせず、感



じ方や感覚の違いを聴くように働きかけます。

グループから、どのようなことが出たかを全体に紹介してもらいます。ファシリテーターから、感覚や感じ方の違い、反応や行動の違いで、認められなかったり、排除されたりといった問題があることを伝えます。

その1つの問題として、発達障がいがあることを説明してコメントしてもよいと思います。

（説明例）

発達障がいとは、心身の発達において、認知、言語、社会性、運動などの機能の獲得が阻害された状態の障がいをいいます。知的障がい、広汎性発達障がい（自閉症、アスペルガー症候群、高機能自閉症など）、学習障がい（LD）、注意欠陥多動性障がい（AD/HD）などがあります。発達障がいは、生まれながらの可能性や個性の1つに捉え、その障がいに対する理解を持つとともに、多様な個性を尊重するという観点から、ともに暮らしていく方法をつくっていくことが求められています。



ファシリテーターの問いかけ

- 「《気持ちに耳を傾けよう》では、それぞれの状況で感じていることを書いてみましょう」
- 「同じ状況でも、皆さんの感じていることは同じでしたか。違いましたか」
- 「《どう感じてる?》では、登場人物が感じたことに、どのようなものがありましたか」
- 「4コママンガを通して感じたことを紹介してください」
- 「感覚の違いや感じ方の違いについて話しあいましょう」
- 「同じことができないといった違いがありますが、それが排除につながらないようにすることが大切です」

●常識（普通）って何？（30分）

グループ（4～5人）に分かれてもらいます。

日常生活の中で、各参加者が「常識」「普通」だと思っていることをA4白紙に10個書き出してもらいます。その後、グループで話しあってもらいます。各グループで「常識」「普通」であることのベスト10を選んでもらい、模造紙にまとめて全体で発表しあいます。そのときに、ベスト10に入らなかったものについても紹介し、実際に「常識」「普通」がどのように形成されるかを理解します。

終了後、外国や少数派の異なる文化、生活習慣、歩みなどの例を紹介し、それぞれが「常識」「普通」だと思っていることは日本だけのもの、あるいは同世代、同業者、嗜好が同じだけの人たちの意見に過ぎないことを説明します。

紹介できる資料を配布することも考えられます。



ファシリテーターの問いかけ

- 「日常生活の中で「常識」「普通」として思っていることを聞いてどう思いましたか」
- 「ベスト10をグループで選ぶときの基準は何でしたか」
- 「「常識」「普通」はどのように形成されているのでしょうか」

●ペアで部屋の四隅(40分)

部屋の四隅に次のように書いた紙を張ります。

『思う』『ちょっと思う』『あまり思わない』『なんとも思わない』

いろいろな2人組になって、これから読み上げる文章について4つのコーナーのどこかを、2人組で考え、選んで動いてもらいます。30秒から1分程度の時間をとって、2人組で話しあった上で動いてもらいます。

2人組は、1問ずつ相手を変えて行動してもらいます(例えば、好きな色で2人組、好きな季節で2人組などと組んでもらいます)。

※部屋の四隅で使う文章例

- ・人間は本来みんな善良である。
- ・嫌いな人にはうそをついてもよい。
- ・怒りを表すには多少、相手を傷つけてもやむをえない。
- ・人間関係づくりにあいさつは基本である。
- ・感動的な映画で涙を見せないのは冷たい。
- ・どんな場合でも正直に言うのが一番だ。

いくつかの文章例で動いた後、各グループ(4~5人)になって、異なる感じや考え方が共存するために、必要な考え方や関わり方は何かを具体的に話しあいます。

🎧 ファシリテーターの問いかけ

- 「2人組で部屋の四隅をしていかがでしたか」
- 「行動を起こすとき、2人組でよかったことはありましたか」
- 「行動を起こすとき、2人組で困ったことはありましたか」
- 「行動を起こすとき、感覚や感じ方が違っていった場合どうしましたか」
- 「この感覚や感じ方の違いについて、考えを聞かせてください」

●ふりかえり(10分)

多様な感覚や感じ方を尊重する社会のために、私たちの心がけとして必要なことは何かを話しあいます。

🎧 ファシリテーターのコメント

- 「人それぞれの感覚や感じ方は、その人にしかわかりません。でも見えないその感覚や感じ方の違いを、常識や普通というカテゴリーの中にあてはめて私たちは気がつかないうちに決め付けや偏見、差別、暴力に向けているかもしれません」
- 「人間関係づくりが困難だといわれている中で、この感覚の違いを自覚し、お互いの感覚を知り、理解することが人間関係づくりの一步になると考えます」
- 「特に、発達障がいについては、「常識」・「普通」で決めつけるのではなく、個性として捉えていきたいと思います。このプログラムは、発達障がいへの理解の出発点にすぎません」

気持ちに耳を傾けよう

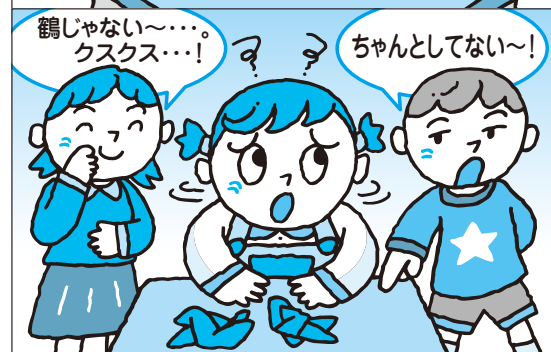
感情

誇り	感謝	競争	当惑
不安	とり残された感じ	両親の不和	不安定
満足	恐れ	おびえ	喜び
疎外感	依存	評価	孤独・・・

もっとふさわしいと感じるものがあれば付け加えましょう。

10代の男の子や女の子が以下のように言う時	その子が感じていることは
1. でも他の子はみんなあんなふうには髪を切っていないじゃない、どうしてわたしはダメなの?	
2. どう、僕の自転車気に入った?うまく塗っただろう?	
3. クラスのみんなはわたしよりもっと進んでいる。わたしのどこがまずいんだろう?	
4. いいよ。今度は自分でキャンプの荷造りできるから!	
5. ボブはわたしが好きだと言ったのに、今日スウと話していたわ。彼とは絶交しようと思うの。	
6. お父さん、今度は数学いちばんになったよ。やったでしょう!	
7. もしいつもみんなにケチばかりつけられたら、どんな気持ちがすると思う? わたしはいつも間違っただけなの。	
8. 彼女がバレーボールが上手だって全かまわないと断言できます。わたしはソフトボールが得意なんだから。	
9. 僕はダンスに行きたくてたまらないけれど、ジュディに電話をかけられない。もし笑われたらどうしよう?	
10. お母さん、ジャケットの手入れをしてくれてありがとう。最高の仕上げだよ!	
11. わたしは料理が嫌いです。デイヴィス先生はいつもいちばん難しい質問をわたしにするの。	
12. いや、あのジャンパーを店に返すつもりはないよ。似合っている感じがいいよ。	
13. 学校に来たばかりのあの新人のせいで、補欠選手に下ろされてしまったよ。	
14. 何があったかわかる! 化学で初めて合格点を取ったんだ。	

どう感じてる？



ガラスの天井を越えて

ねらい

現在、日本社会には200万人を超える外国人が在住しており、人口の100人に1人以上は外国籍住民で占められるほど、社会のあらゆる分野に在日外国人の存在が“あたり前の存在”として位置づけられてきています。

しかし、外国人といっても多様で、在日韓国・朝鮮人のような旧植民地出身者とその子孫や中国残留孤児の関係者とその子孫といった歴史的経緯を持った人たちもいれば、1980年代以降、仕事や結婚、留学などで来日して定住していく外国の人たち（ニューカマー）もいます。

この在日外国人が安心して日本で暮らしていくためには、偏見や差別、異文化間での摩擦をなくすための共生の関係づくりや社会システムづくりが求められています。このプログラムでは、在日外国人との共生をテーマに、「ひとづくり」という見方から「一人ひとり」をありのままに受けとめる多様性の観点で社会を捉えることを学びます。

※表題の「ガラスの天井」とは、アメリカにおけるマイノリティの「法的差別」はなくなったはずなのに、マイノリティの社会参加や進出が困難な状況を象徴する言葉として用いられています。つまり、「機会の平等はあるはずなのに、上にあがることはできない、見えない天井が存在する」という意味です。このプログラムでは、機会の平等も保障されていないという状況を含めて、「ガラスの天井」と表しました。

基本概念

多民族・多文化共生、自他理解、ユニバーサルデザイン（共生システム）

時間

90分～130分

準備するもの

- 「名刺カード」（参加人数分）〈55ページ〉
- ワークシート「名刺交換記入用ワークシート」（参加人数分）〈56ページ〉
- 「参加カード」（①オレンジ、②緑色、③黄色、④青色を割合（※）に応じて参加人数分にする）
- ※参加人数が30人ならば、①オレンジ3枚、②緑色7枚、③黄色15枚、④青色5枚にする箱（何でもよい）
- のり付きふせん紙（7～8cm角 参加人数分×20枚程度 ※多めにあるとよい）
- 模造紙（グループ数）
- マーカー（グループ数）

プログラムの流れ

肩書きで自分が変わるか？

さまざまな職業や肩書きが記載された名刺カードを参加者全員に配布し、全体で名刺交換を行います。1回あたり1分から1分30秒をめどに会話をし、終了後は交換した名刺の肩書きが次の新しい名刺となり、5～10人の人たちと交換します。名刺の肩書きによって自分がどのような気持ちになるかを考えます。

【アクティビティ】
名刺交換